

シニア団体活動支援事業は、元気な高齢者が地域の活動に参加するきっかけをつくり、高齢者の社会参加と自主的活動を促進し、高齢者の生きがいと健康づくりを目的としております。この広報誌では、年齢を感じさせず、いきいきと活動している本事業登録団体をご紹介します。

宗祇白河連句会

活動エリア	市町村	活動内容	電話番号・FAX メールアドレス等
県南地区	白河市	実作会、小中学生への指導、各種大会への参加	TEL0248-277-7200 (会長宅)
構成	年齢	活動日時	会費
男性 7名 女性 3名 計 10名	36歳～89歳 (60～70代中心)	毎月第4土曜日 10時～15時 定例会の他、イベント等は随時活動	年会費2,000円 月会費1,000円

〈連歌師宗祇とゆかりの地〉

宗祇白河連句会は、室町時代に活躍した連歌師宗祇とゆかりのある白河市で連句文化を盛り立てるため、当時の会長福原重吉氏を中心に平成20年8月発足した。会では今年初めて12月に白河市鹿島神社へ奉納する連句百韻一巻を作成しており、その準備を行うほか連句指導もするなど、地域文化を継承する活動を積極的に行っている。また、各種大会への作品出品も精力的に行っている。

〈連句の魅力は連帯感〉

俳句や川柳が個人の作品であるのに対し、連句の魅力は座を組む全員で作品を作り上げる連帯感にあるという。会のメンバーは「規則などが厳しく難しい印象であるが、そこそが連句の醍醐味。誰かのミスも他の誰かがフォローし、座で句を詠むことが家族のような連帯感につながる」と話す。現会長の久保田直氏は会員を増やし、会の活動の更なる振興を今後の目標と語った。入会問合せは、会長まで。



この日、実作会へ参加した皆さん。指導にあたるのは(一社)日本連句協会副会長狩野康子氏(写真前列中央)。



取材当日は12月に鹿島神社へ奉納する百韻(一巻)の発句から冒頭部分を詠む実作会が行われた。講師の狩野氏を「捌き(座のリード役)」として、メンバーが次々に句を作る。

語句説明

※宗祇・室町時代の連歌師。和歌の西行、俳句の松尾芭蕉とともに連歌を代表する旅の詩人。白河市には「宗祇戻しの碑」があり、宗祇が白河市を訪れた際の逸話がある。

須賀川スポーツダンス愛好会

活動エリア	市町村	活動内容	電話番号・FAX メールアドレス等
県中地区	須賀川市	2月1日に1度のペースで懇親会	TEL0248-721-2400 (会長宅)
構成	年齢	活動日時	会費
男性 9名 女性 16名 計 25名	50歳～75歳	毎週木・土曜日 (時間は会場予約の都合で不定期)	月会費1,000円

〈若さの秘訣はいい意味での緊張感〉

須賀川スポーツダンス愛好会は、社交ダンスをやりたい有志により平成15年4月に愛好会として発足した。初心者から中・上級者までレベルに合わせて、社交ダンスの技術向上に励んでいる。「社交ダンスもスポーツ同様、心技体が肝心」と話すのは、指導にあたる会長水野勝弘氏。社交ダンスの魅力について会員の方々は、「姿勢がよくなる」「体力が付く」「よい緊張感をもって異性と接すると、自然と若々しくなっていく」と話してくれた。

〈遊び心も大事に〉

愛好会では社交ダンスの技術力向上だけでなく、会員同士の和気あいあいとした雰囲気や年2回の1泊2日旅行では、さらびやかな衣装で臨む社交ダンスパーティーが開かれ、楽しい一時を過ごす。会長は「若々しく毎日を過ごすことが目標。ぜひ遊び心の多い方に参加してほしい」と呼びかけた。入会問合せは、会長まで。



この日定例会へ参加した皆さん。会長水野勝弘氏(写真前列左から3番目)が指導にあたる。



定例会では男女のペアを曲ごとに変えながら、チャチャチャやルンバなど社交ダンスを楽しく踊る。



「社交ダンスの魅力は心技体が全てパートナーと揃った時の一体感」と話すお三方。左から石川保男氏(78)、大和了氏(80)、横堀信幸氏(76)。

もえぎ木のかい

活動エリア	県北地区	構成	男性	女性	計
市町村	国見町	年齢	3名	12名	15名
電話番号・FAX メールアドレス等	Tel 024-585-4850	構成	65歳～88歳		
活動内容	慰問ボランティア活動	日時	月1～2回	不定期	
会費	なし	活動日時	開催		

〈多彩な慰問活動〉

もえぎ木の会は、会長の菅井氏が地元婦人会メンバーに声をかけ、平成11年に施設慰問ボランティアとして発足。賛同者が徐々に増え、現在は日舞、大正琴、詩吟、ハーモニカ、語り部による昔話、三味線、カラオケ、オカリナなどの中から数種類組み合わせたプログラムを披露している。近隣の福祉施設からの依頼に応じて月1～2回程度慰問や利用者との交流活動を行うなど、いつでも要請に応じて自主練習している。



会長の菅井昭子氏（写真左）と大正琴の指導にあたる佐久間イネ子氏（写真右）。

〈人の為、自分の為〉

会長の菅井昭子氏はボランティアの魅力について「ボランティア活動はライフワークであり、人生の目標です。皆さんに喜ばれるために活動していることが、毎日の生活に張りあいが出て実は自分の為になっています」と話す。「何にでも挑戦する気持ちを持ち続け、これからも健康が続く限りこのペースで継続していきたい。」と今後の目標についても語った。入会問合せは、会長まで。



取材当日は地元の高齢者デイサービスセンターで、慰問活動。大正琴演奏、語り部による昔話、津軽三味線演奏、詩吟等多彩なプログラム。

すかがわとうかい

活動エリア	県中地区	構成	男性	女性	計
市町村	須賀川市	年齢	25名	2名	27名
電話番号・FAX メールアドレス等	Tel 080-8433-0759 0248-76-5316	構成	50歳～85歳 (60～80代が中心)		
活動内容	定例会、季節ごとに大会、2カ月かけて戦う総当たり戦を年に3回実施	日時	毎週木・土曜日 13時～18時 (時間内自由参加)		
会費	入会金1,000円 月会費500円 (4月10日に半期分一括納入)	活動日時			

〈老舗の囲碁愛好会〉

須賀川東下囲碁愛好会は、今年で創立21周年を迎える老舗の囲碁愛好会だ。週2回行われる定例会は、各自が自由に休憩を入れながら囲碁の対戦を楽しんでいる。毎年8月に囲碁講座を開催する他、季節ごとの大会、年3回約2カ月かけて行う総当たり戦など活発に活動している。

〈頭の運動で脳から若々しく〉

囲碁は、盤面全体を見ながら攻守の戦略を練ることで空間を認知する右脳を使う頻度が多く、また指先を使うため、集中力・記憶力・注意力・認知能力の維持向上、論理的思考の鍛錬に効果があるとされている。いわば、頭の中から若々しくなるゲームだ。さらに、予め碁石を盤に置く「置き碁」というハンデルールがあり、棋力の差がある二人でも楽しんで取り組める。この日お話を伺った会長三好栄治氏は「もっとたくさんの方に囲碁を楽しんでもらいたい」と今後の目標を話してくれた。



お話を伺った役員の方々と、現会長は三好栄治氏（写真右から3番目）。

この日は、2カ月かけて競う総当たり戦の初日。皆、真剣に碁を打つ。

入会問合せは、会長まで。

シニア団体活動支援事業の登録団体を募集しております —いいきと活躍するシニアサークル・団体の登録をお待ちしております—

●活動紹介してみませんか？

いいきと活動している県内のサークルや団体の活動状況を本会ウェブサイトや本チラシでご紹介します。

●対象となるのは？

シニア世代が中心となって活動されているサークル・団体様（年齢構成、活動内容、法人格の有無は問いません）

●参加方法は？

この事業は登録制で、登録は無料です。年度途中からの参加も可能です。登録のご案内やご不明な点がある場合は、本会に直接お問合せ下さい。

●発行元・問合せ先 福島県社会福祉協議会 いいき長寿課

〒960-8141 福島市渡利字七社宮111番地 福島県総合社会福祉センター3階
TEL (024) 524-2224 FAX (024) 524-2228